

# ふるさと

第 19 号



西方寺のヒガンバナ

## 目次

2017 第 2 回麻生ふるさと交流会 ……	(1)
講演要旨：音楽人生とふるさと ……	(5)
講演要旨：麻生の歴史ロマン(2) ……	(8)
マンホール蓋の色々 ……	(11)
江戸のファッション ……	(13)
【連載】隠岐流人秘帳(その8-2) ……	(16)
NHK朝ドラ「ひよっこ」 ……	(22)
ふるさと磐梯町(2) ……	(23)

発行：2017年10月7日(第19号)  
発行：麻生ふるさと交流会事務局  
担当：平塚 征英、横田 彰夫

麻生ふるさと交流会

表紙写真：平塚 征英 さん  
タイトル：西方寺のヒガンバナ  
撮影月日：2017. 9. 16  
撮影場所：横浜市港北区新羽  
記 事：赤・黄・白三色のヒガンバナが  
門前の参道に。ピンクも別の  
場所に咲いていました。

「麻生ふるさと交流会」ホームページ  
<http://web-asao.jp/hp2/asao-furusato/>

## 平成29年度・第2回麻生ふるさと交流会

場 所:麻生市民交流館 やまゆり

日 時:平成29年7月15日(土)

13時30分～17時00分

参加人数 34名(ゲスト6名)、懇親会参加23名

### 第1部 麻生ふるさと交流会 (13:30～15:40) 司会:辻村副会長

#### ● 開会の辞…辻村副会長

暑中見舞いの挨拶は梅雨が明けてからの事で、未だ梅雨はあけていませんが、毎日暑い日が続きますが、会員の皆様におかれましては、くれぐれも水分を多く取り、お体を大切にしてください。

#### ● 松本会長の挨拶

久しぶりの会長としての挨拶ですが、今日はカンディンスキー美帆子さんの講演という事で、クラシック音楽を、ヴァイオリンの演奏で聞かせて頂けると期待しております！？

私はクラシックには凝っております、自作のオーディオ装置を使って楽しんでおります。



辻村副会長



松本会長



参加者の皆さん・ゲストの方も

### I. カンディンスキー美帆子さんの講演【音楽人生とふるさと】…★詳細はp5講演要旨を参照下さい。

- ◇ 旧姓は中根美帆子さん。平塚の海辺で過ごし、お父さまの赴任先である愛媛での美しい海とみかん山、道後温泉などで子供時代を過ごしたこと。父方、母方のルーツのお話をされました。
- ◇ イギリスに留学して得たこと。ヨーロッパ各地への旅行。
- ◇ ご専門の音楽の話では、音楽と故郷の視点から、日本とヨーロッパのフレーズの長さ、調性、拍子と音階の違いについて。日本の民謡は二拍子、ヨーロッパでは三拍子が多いこと。
- ◇ 生まれ出て帰るべき故郷、ふるさとは天国である。音楽はこの世に天国を届け、また神にささげる循環がある。
- ◇ ピアニストのミハイル・カンディンスキーさんとの出会いと結婚。これからの抱負と夢についてのお話もあり、楽しいひと時を過ごしました。



結婚式



友人の結婚式で演奏



ご家族やお友達も参加



## II. 飯塚さんの講演【麻生区の歴史ロマン(2)】

- ◇ 麻生区歴史観光ガイドの会としての活動、昨年は10回ほど王禅寺・黒川・岡上・上下麻生・高石・細山・早野などを回りました。
- ◇ また、年2回バスツアーなどを企画し実施しており、これは JTB に委託して実施しています。大変人気があり、費用は 4,500 円ですが、市から 2,000 円の補助金を頂いている。これらの企画は、市の市政だよりに掲載されます。また、義経伝説などに関する行事も行っています。
- ◇ 麻生区内の歴史観光名所を、配布した「麻生の魅力」(麻生観光協会編集)に基づいて説明します。…★詳細はp8講演要旨を参照下さい。



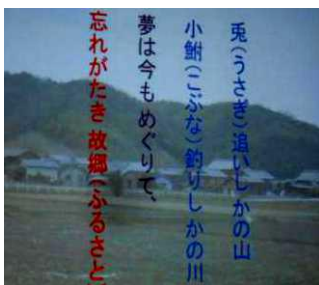
「麻生の魅力」を説明します

## III. 事務局からの連絡

- ◇ 宮本さんより 次回以降も飯塚さんに講演をお願いしたい。
- ◇ 遠野の民話の話は、スケジュールが合わず、来年以後になります。
- ◇ 10月7日は飯塚さんの話と宮河さんによる麻生の民話の予定です。
- ◇ 平塚さんより、会員リストの住所・電話・メールアドレスなど変更のある方はご連絡を。
- ◇ 明日、宮前区・平の白幡八幡大神で禰宜舞がありますので、興味のある方はどうぞ。

## IV. 会歌”ふるさと”の合唱

- ◇ 横田さん作成のパワーポイントの音楽に合わせて、皆さんで合唱しました。



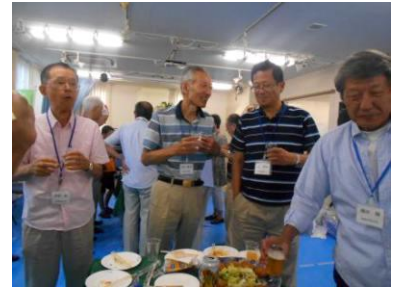
## 第2部 懇親会(15:50~16:45) 司会:新井さん

- ◇ 乾杯の音頭は松岡さんをお願いしました。
- ◇ 平松さんと松岡さんから民謡が披露されました。
  - ・平松さん…道中馬方節
  - ・松岡さん…音戸の舟歌

今回も多くの方々から、有難い差し入れを沢山頂きました。有難うございました。

日本酒(北秋田大吟醸、愛知のにごり酒・國盛、秩父錦、越後仕込み純米冷蔵)、  
焼酎・奄美の黒糖酒、ワイン・ドン ルチアーノ、手作りとんかつ

…平塚、平松、森、宮本、茂木、田中(元)さん、宮河さん







お疲れさまでした。

## 音楽人生とふるさと <講演要旨>

カンディンスキー美帆子

### 【心のふるさと】

- ◇新百合ヶ丘(麻生区白山)に越して5年…子どものふるさとになる所。
- ◇平塚育ち…海山の自然豊かな中でのびのびと。徳川家康の中原御殿近くで。



中原御殿の碑



大山



富士山と平塚市街

- ◇小学校時代の愛媛松山…瀬戸内の美しい海、みかん山、田んぼにお城、道後温泉。



松山城



みかん山



道後温泉

- ◇父方ルーツ…小田原城の祐筆。青山御用邸となり、青森藩家老、北海道銀山。
- ◇母方ルーツ…栃木、神楽坂。大磯では伊藤博文を接待したことも。
- ◇父の単身赴任先…愛知、三重、仙台、千葉。文部省吏員で全県を回った父。
- ◇戦中、祖父母が生き残って私が生まれたわけ。
- ◇故郷を感じる時…実家の庭木、親との思い出、恩師の言葉、山の眺めの角度、大山～富士山。

### 【音楽と故郷】

- ◇自然から国民性へ、音楽へ。
- ◇フレーズ…短い日本、長いロシア。文章も河も、陽(日)も長い。
- ◇拍子…二拍子系の日本。(三位一体の)三拍子系のヨーロッパ。
- ◇お国柄を表す…楽器はイタリア、弓はフランス、弦はオーストリア、楽典はドイツ、市場はイギリス。
- ◇調性… $\flat$ 系の似合う日本。ふるさとのイメージはへ長調? ト長調?
- ◇音階…自然界は長音階。短音階は人の心? 音階の力関係は $\flat$ のつく順にシャープな音に。  
音階はなぜ七音なのか 短調の標はなぜ第三音なのか
- ◇天国という故郷…生まれ出でて帰るべきところの天国を示す音楽。この世に天国を届ける音楽。  
神にささげる音楽 Glory to the God.
- ◇自分の心のため、祈りのためだけに音楽を弾くのではなく、人に聞いてもらえたらと思う理由。



### 【私の音楽人生】

- ◇子どもの頃の夢。
- ◇音大に行く!
- ◇留学したいと言えなくて。



- ◇ なぜ今度は試験に受かったのか。
- ◇ イギリス人によく言われた言葉 “ Take it easy, Be happy ! “
- ◇ 留学して勉強になったことは？  
楽譜に書いてあることを理解感受する能力。音符そのものが作曲者のダイレクトメッセージ。
- ◇ 留学して一番良かったことは？
  - ・将来の結婚相手に出会えた。
  - ・すばらしい先生に出会えた(名声でなく教え方が)。世界のたくさんの友達に出会えた。
  - ・よい楽器を一年間貸与されて弾けた。何が良い楽器なのかを知った。
- ◇ 帰国間際にクリスチャンになれた。(日本で仏教を学び、イタリアでカトリックに影響を受け、イギリスで洗礼を受け、日本に戻ってプロテスタントに入り、結婚して正教徒へ)
- ◇ 有名人には会った？ ダイアナ妃。メニューイン。ウィーン・ハプスブルグ家の末裔。
- ◇ オーケストラはプロ？
- ◇ 帰国する？ しない？
- ◇ イギリス、ロシア、日本、どこに住む？
- ◇ 外国人との結婚での違い 狩猟民族と農耕民族。  
時間感覚の違い。
- ◇ モスクワで名家のカンディンスキー家に嫁ぐためにしたこと？
- ◇ 子供もピアニストになる？
- ◇ 音楽の旅で一番印象深い旅は？  
夏の休暇前、ミーシャ(夫)に“Have a nice summer ! “  
と言われ、秋にもっとお話したいがために頑張って行った一人旅行が、今はいい思い出に。
- ★ ロンドン発 → ウィーン楽友協会。妹の留学先へ → ハンガリーにドライブ → ハイドンの生家。エステルハージー宮殿 →



ウィーン 楽友協会



ハイドンの生家



エステルハージー宮殿

→ 卒業試験曲・ブラームスのコンチェルトが作曲された保養地ペルチャツハに滞在 → ブラームスがイタリア旅行した時と同じ路線を通過してイタリア入り → ヴィチエンツァ。母校昭和音大の夏季研修旅行に合流・聴講・小旅行同行 →



保養地ペルチャツハ



ブラームス像



ヴィチエンツァ

→ ヴェローナ。友人パオラの結婚式に出席して教会で演奏 → スイス、フランス、ドーヴァー海峡上を渡って懐かしのロンドン・ヒースローへ。



イギリスの緑の平地が見えてきたときにはホッとしました！



ヴェローナ



教会で演奏



ロンドン・ヒースロー空港

◇ これからの夢・抱負

【ロシア人ピアニストの夫 Mikhail Kandinsky との出会い】

英国王立音楽院デュークス・ホールでの演奏に感銘を受けて、プログラムを家の暖炉に飾った。

- ◇ その後、試験の伴奏者に紹介された人が同一人物と思わないうでいた！
- ◇ 伴奏合わせで苗字を聞いても、画家と同じ名だが、ロシアには多いのかなと思った。  
学食で日本の女子がミーシャはすごいと、うわさしていて何か気になり、飛んで帰って暖炉をみたら、その人だった！
- ◇ 試験でとても楽に弾けて、「頑張るので卒試までお願いします！」と頼むと“Not at all!”で何気なし。
- ◇ 卒業後はロシアに帰ってしまうと聞き、試験のプレッシャーとともに病気になる。
- ◇ さよならの時、「モスクワに来たら案内します」と言われ、真に受けて、自分が帰国する際ロシアに立ち寄る。
- ◇ ご両親、ご家族にお会いしたが、観光して何事もなく帰ってくる。
- ◇ 日本から文通。返事もあまりなく。
- ◇ 電話で誕生日パーティーに呼ばれ、仕事代 はたいてモスクワに行くが、また帰ってくる。
- ◇ 日本に招聘決意、ミーシャの藤沢・東京リサイタルと自分の横浜リサイタルを三本企画！



英国王立音楽院



♪ 世界50ヶ国から来た学生達と友人になったロンドン…。音楽は民族を超え、国境の垣根を飛び超えて世界に広がり、人の心と心を友好の絆で結んでいく。

戦争のない平和な世の中を音楽で…。今私にあるのは音楽と全ての人々への感謝です。

2017/7/15 カンディンスキー美帆子

## 講演要旨：麻生歴史ロマン(2) ～麻生観光ガイドブック「麻生の魅力」～

飯塚 洋三

今回の講演で説明した麻生区の歴史観光名所について、「麻生の魅力」：麻生観光協会編集の一部を補足して紹介します。

このガイドブックでは、麻生区を7つのエリアに分けて、それぞれのエリアを訪れる人に魅力ある都市観光の5つの視点、「見る」「集う」「憩う」「買う」「食べる」から紹介しています。

【エリア1：栗平駅・黒川駅・はるひ野駅周辺】 栗平・栗木・栗木台・黒川・南黒川・はるひ野  
主な紹介スポット…常念寺、林清寺、とんび池公園、栗木御嶽神社、マイコンシテイ、西光寺、汁守神社、毘沙門天堂、黒川谷ツ自然公園、地神塔、黒川の里山、黒川東営農団地、黒川青少年野外活動センター、劇団民藝、明治大学黒川農場



汁守神社

大國魂神社の汁物を調る役目を担った。



黒川の里山

「柿生の里」を思い出させる里山風景。



明治大学黒川農場

環境・自然・地域との共生を目指す。

【エリア2：五月台駅周辺】 白鳥・片平・五カ田・古沢  
主な紹介スポット…川崎フロンターレ麻生グラウンド、白鳥神社、九郎明神社、金神神社、善正寺、麻生区スポーツ・健康ロード、修廣寺、草木染研究所柿生工房(草木工房)



九郎明神社

義経家臣のふるさと。義経を祭神として祀る。



金神神社

一木彫り大黒天は日本一。



修廣寺

頼朝が夏に巻狩をした。→ 山号の夏菟山

【エリア3：百合ヶ丘駅周辺】 金程・向原・千代ヶ丘・細山・多摩美・高石・百合丘  
主な紹介スポット…高石神社、細山神明社、潮音寺、大楠、金程万葉苑、香林寺、地蔵菩薩と庚申塔、中村正義の美術館、山田土筆美術館、御嶽神社細山分社、多摩自然遊歩道・市民健康の森、川崎授産学園、麻生老人福祉センター、法雲寺、五色八重咲散椿、向原の池と弁才天女像



高石神社

標高117m。伝統行事の「やぶさめ」



香林寺

日本唯一の禅宗様式の五重塔。



法雲寺

寄木造の阿彌如来坐像は、市の重要歴史記念物。



【エリア4:新百合ヶ丘駅周辺】 万福寺・上麻生・百合丘・東百合丘・王禅寺東/西  
 主な紹介スポット…新百合ヶ丘駅周辺、山口谷戸の石塔群、地神塔、十二神社、麻生総合庁舎と  
 麻生文化センター、王禅寺見晴らし公園、六地藏、弘法松公園、山口台住宅街、  
 ヨネッティー王禅寺、ホテルモリノ新百合丘、麻生スポーツセンター、



新百合ヶ丘駅周辺

H10年に都市景観大賞を受賞。



十二神社

万福寺地域の氏神。



王禅寺見晴らし公園

義経・弁慶の「弁慶の鍋転がし」伝説。

【エリア5:柿生駅周辺】 上麻生・下麻生・白山・王禅寺西  
 主な紹介スポット…麻生川の桜並木と「桜まつり」、宝塔様、麻生不動尊(木賊不動)、柿生郷土史料館、  
 東林寺、白山神社、浄慶寺と秋葉神社、常安寺、月讀神社、麻生水処理センター、  
 恩廻し公園・鶴見川調節池、



麻生不動尊

1月28日は関東の納めダルマ市。



浄慶寺

柿生のアジサイ寺。表情豊かな羅漢像。



月讀神社

麻生郷の領主・小島佐渡守の創建。神社名が稀。

【エリア6:王禅寺東・早野・虹ヶ丘周辺】  
 主な紹介スポット…王禅寺ふるさと公園、王禅寺、琴平神社、稻荷森稻荷社、眞宗寺川崎霊園・鐘楼堂、  
 子ノ神社、籠口ノ池及び化粧面谷公園、早野聖地公園と七つ池、戒翁寺、殿様の墓、  
 虹ヶ丘小学校コミュニテイルーム、



王禅寺

関東の高野山。樹齢450年の禅寺丸柿の原木。



早野聖地公園

S47より整備。谷戸の湧水を溜めた7つ池。



殿様の墓

高さ2mに及ぶ4基の五輪塔。

## 【エリア7:鶴川駅・岡周边上】

主な紹介スポット… 東光院、岡上神社、岡上の屋敷林、麻生市民館岡上分館、岡上営農団地、



東光院

木造兜跋毘沙門天立像は重要歴史記念物。



岡上神社

岡上村内の5社が合祀。



岡上営農団地

里山を巡る散歩にも快適。観光農園も。

## 【ふるさと麻生八景】

次世代に受け継いでいきたい麻生区の魅力を、麻生八景としてまとめました。「麻生の自然にとけ込む」「麻生の自然を歩く」「麻生の新しさを感じる」「麻生の暮らしを楽しむ」「麻生の昔を見つける」「麻生の人に交わる」「麻生から眺める」「麻生で楽しく集う」という、八つの視点を八景と捉えて、12か所が選ばれました。

選ばれた場所ばかりでなく、魅力ポイントはまだまだたくさんあります。あなたの麻生八景を探してみてください。

### 【麻生の自然にとけ込む】

- 1) 岡上の郷(p. 35)
- 2) 黒川の里山(p. 10)
- 3) 早野の里(p. 32)

### 【麻生の自然を歩く】

- 4) 麻生川の桜並木(p. 26)
- 5) 栗木緑地(p. 9)

### 【麻生の新しさを感じる】

- 6) 新百合ヶ丘駅周辺(p. 22)

### 【麻生の暮らしを楽しむ】

- 7) 山口台住宅街(p. 23)

### 【麻生の昔を見つける】

- 8) 王禅寺(p. 30)
- 9) 香林寺(p. 17)

### 【麻生の人に交わる】

- 10) 麻生不動のダルマ市(p. 26)

### 【麻生から眺める】

- 11) 弘法松公園(p. 23)

### 【麻生で楽しく集う】

- 12) 多摩自然遊歩道・多摩美ふれあいの森(p. 19)



岡上の田園風景



麻生川の桜並木



香林寺一帯



## マンホール蓋のいろいろ～やまゆり周辺～

平塚 征英

マンホールの丸い鉄蓋は、道路上に訳もなくポツポツある訳ではありません。またその役割も様々です。

下水道や上水道を初め、電話線・光ファイバー・電気・ガス管などが埋設されている場所には、必ずマンホールが設置されています。

その殆どは、点検口の役割を持っています。要するに、そこから維持・管理を行う訳です。人が点検するための出入り口を意味する「人孔(じんこう)＝Manhole」のことです。



昭和59年以後の川崎市下水道のマンホール蓋は、右図のように表示されています。

一番上に川崎市の市章があり、中央には市の花「ツツジ」が、周辺には市の木「ツバキ」が、区の数と同じ7個配置されています。

下水道には分流式と合流式があり、分流式には污水管と雨水管とがあります。合流式の下水管には污水と雨水が流れます。

分流式の雨水は河川等に直接放流されますが、それ以外は下水処理場に集めて、処理してから放流されます。

合流式のマンホール蓋の下の方には、右図のような「葉っぱのようなマーク」がありますが、雨水用のマンホール蓋には、下の方に「雨傘マーク」があります。

ツバキのマークにはガス穴の場所があり、合流式と雨水管にはガス穴があり、污水管にはガス穴はありません。多分、臭いが外に漏れないためでしょう。



下の写真は左が合流式マンホール蓋で、右側が雨水用マンホール蓋です。



合流式

雨水用

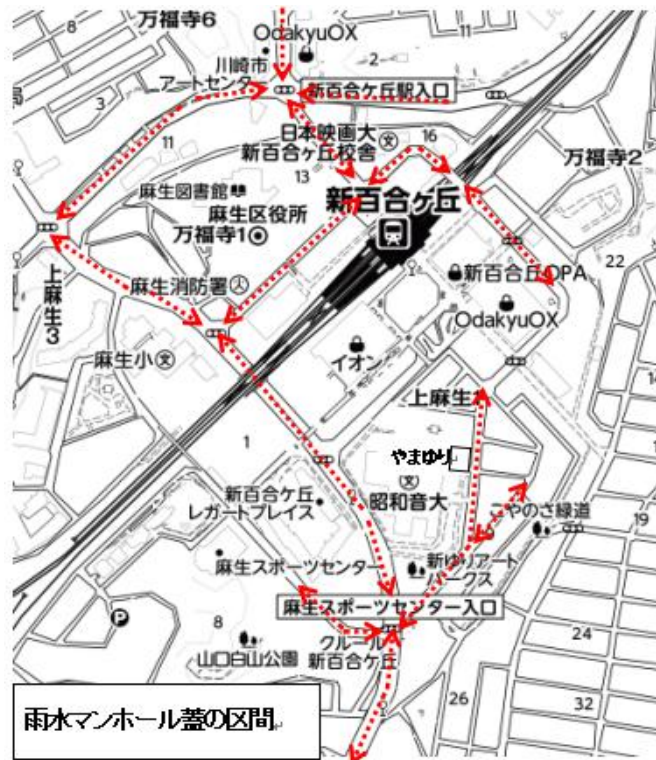
雨水用の雨傘マーク

私は雨水用マンホール蓋には、余りお目に掛かっていませんでしたが、新百合ヶ丘駅付近では、結構たくさん見かけることが出来ました。他の地区では、合流式マンホール蓋が多いようでしたけど。

雨水マンホール蓋の区間は、次ページの地図をご覧ください。比較的に見やすい場所は下記です。

- ◇ 「やまゆり」前の車道…注意！ 坂上の交差点の横断歩道のマンホールが見やすい。
- ◇ アルテリッカ前の歩道に数か所。
- ◇ 新百合ヶ丘駅北口から世田谷通りまでの車道。注意！

マンホールは道路の真ん中の方にある事が多いので、交通には十分気を付けてご覧になってみては如何でしょうか？



雨水マンホール蓋の区間。

＜その他の下水道マンホール蓋＞



雨水用

汚水用

歩道用

＜川崎市のマンホールカード＞ 2017年8月1日から配布されています。

マンホールカードは、国交省などで作る「下水道広報プラットフォーム（GKP）」とマンホールを管理する全国の自治体が共同で作成したカード型の下水道広報用パンフレットです。

川崎市では、市内約12万6千個のマンホール蓋のうち、ひとつしかない色鮮やかな本市ブランドメッセージ入りのマンホール蓋を、マンホールカードにしました。（川崎駅東口にある）



35°31'49.7"N  
139°41'52.2"E

**デザインの由来**

設置開始 2017年

川崎市ブランドメッセージ

Colors, Future!  
いろいろって、未来。  
川崎市

ブランドメッセージは、市制100周年を2024年に控え、シビックプライドを醸成し、未来の川崎をイメージするために誕生しました。光の三原色で構成された「川」のロゴマークは、どんな「色」にもなれる多様性や自由をあらわしています。市民一人ひとりの思いが多彩な「色」となり、川崎の新しい未来への可能性を広げていく、そんな意味が込められています。また、円周状に配置した色とりどりの「川」で彩ることにより、150万人都市川崎の限りない可能性を表現しました。このマンホール蓋は、川崎駅東口駅前広場にひとつだけ設置していますので、ぜひ探してみてください。

1708-00-001  
川崎市観光案内所 ©GKPマエプロ



## 江戸のファッション

大井 敏夫

着物の別称として和服、或いは呉服という言葉が使われています。

呉服は古代中国の呉国から伝わったとの説も有りますが、正確には織り方が伝わったもので有り、呉国も特定の国を指すものではなく、広く江南地方を指す様です。

### 着物

着物は下着であった小袖が発達したのですが、ファッションとしては江戸期以前の戦国期から一部の階級では有りますが、其の兆候が見られます。

代表として持明院収蔵の「お市の方」肖像に見る事が出来ます。

小袖研究家に依れば、肖像の襟元を観ると、下から白無地小袖、段模様片身替肩裾小袖、辻花紅小袖、草花雲文様片身替肩裾模様小袖、縫箔菊霧紋並文様小袖の五枚重ねをして、最後に「花立湧に丸に菊唐草文様打掛唐織」を腰に巻いています。



お市の方

然し、一般庶民に其の兆しが現れるのは、世の中が安定する時代になってからの事です。



寛文小袖



裾模様

初めは全体に模様が施されたものでしたが次第に変化し、模様が片身に寄った「寛文小袖」、幅広帯の流行が奢侈禁止令に依り江戸中期には裾周りに模様を散らした「裾模様」が流行り、宝暦(1751～1764)の頃には裾から七寸～一尺程の裾模様が現れます。

其の外、無地、縞模様、遠目には無地に見え、全体に小さな文様を散らした小紋が現れます。

小袖の文様は帯幅が広くなるに連れ、又奢侈禁止令に依り目立たぬ部分を凝らし、或いは渋く粋なものを好む風潮を生みだしました。

縞模様、格子模様と小紋の一例を以下に示します。



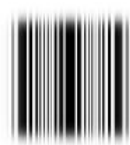
吉原繫ぎ



三筋立



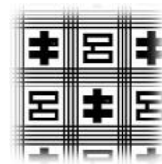
算盤縞



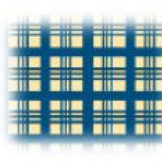
瀧縞



立湧



菊五郎格子



弁慶格子



市村格子



六瓢箪



南天



勝虫

- ・菊五郎格子: 三代目御能菊五郎の考案、四本、五本縞(合わせて九)の間に「キ」「呂」を入れ菊五郎と読ませる。
- ・弁慶 縞: 弁慶格子とも云い歌舞伎・勧進帳で弁慶の衣装とした事から流行した。
- ・市村 格子: 十二代目市村羽左衛門が創始、横一筋に縦六筋の格子に「ら」。
- ・六 瓢 箪: 瓢箪が六つずつで「むびょうたん」無病息災の意。

- ・南 天:南天の葉と実文様「難を転ずる」の語呂合わせ。
- ・勝 虫:トンボの異称、トンボは前にしか進まないのが武士に好まれた。

## 帯

小袖と対を為すのは帯で、戦国期の細いものから十七世紀後半には太いものへと変わって行き、其の後は結び位置、結び方共に様々なものが流行して行きます。

文化十年(1813)刊の「都風俗化粧伝」に「前帯は遊女から町の女へと流行って行ったが、略儀である為、身分の高い女は前帯にしない」と記されているそうです。

現在、一般的に結ばれている太鼓結びは江戸後期に考案されたが、一般に普及するのは明治以降です。又、化政時代(1804~1830)に太幅の帯を押さえる為に、帯留めが考案されました。



- \* カルタ結び: 初期、結び目がカルタの見える処からの名称。
- \* 吉 弥 結び: 初期、歌舞伎女形の上村吉弥が結んで流行、元禄の頃は両端を垂らした。
- \* おまん結び: 初期、歌舞伎「奴の小万」に由来、小万は男勝りの実在の女性がモデル。
- \* 水 木 結び: 元禄期の女形、水木辰之助に由来、背の高さに合う様に、若い女性が好む。
- \* 太 鼓 結び: 文化年間に再建された亀戸天神の太鼓橋に形が似ている事に由来。

## 下着

始め下着であった小袖が上着となりましたが当然下着が必要で、肌着として用いていたのは上半身用の襦袢と下半身用の褌です。肌着の上に下着を重ね、更に其の上に小袖を重ねていました。

上半身用の肌着には丈の長い長襦袢と短い半襦袢があります、長襦袢は袷で表に麻の葉、鹿の子絞り等文様の有る絹の緋縮緬、裏は木綿が用いられる事が多く、半襦袢は木綿の単で襟に袷で絹の緋縮緬が多く用いられた様です。

下半身用は女性物が女褌と云い、現在の腰巻に近いもので、入浴時に下半身を覆うのに用いる事から湯文字とも呼ばれ、緋色の縮緬が多く用いられました。

江戸後期には蹴出し・裾避け等と呼ばれ、歩く時に小袖の裾から見える事を意識した女褌の上に重ねて着用する物もあり、此れ等には刺繍が施される事も有りました。

男性用の褌は長六尺の晒しで作られた六尺褌、半分長の越中褌、更に短く両端に結び紐を通す畚褌(もっこふん)がありました。布地は江戸初期には麻、後に木綿が主流となり、上物は加賀絹や絹の縮緬も有りました。

下着は小袖と同型で江戸初期には麻や絹が用いられる事が有りましたが木綿の普及に伴い木綿が主流になりました。

江戸時代の風俗を記した江戸後期の著書「守貞謾稿」には初冬や春には一枚、真冬には二枚重ねであったと記されています。

## 足袋

足を保護、或いは洒落物として足袋が有りますが、如何様な変遷があったのでしょうか。

「喜遊笑覧」に依れば、江戸の人々は貴賤を問わず、明暦の大火迄は皮足袋を用いていたと云います。 \* 喜遊笑覧: 喜多村信節著、江戸後期の風俗習慣、歌舞音曲を記し、天保元年(1830)刊。

然し、大火の後に燃え難い革製の羽織や頭巾が流行った為に皮の価格が高騰し足袋に回す皮が不足して来ました。



又、大火の前、寛永期(1624～1644)に木綿の足袋が作られる様になり、相俟って木綿の足袋が主流となりましたが、革製の足袋も改良され使われていました。

足袋を留めるのに初めは紐が使われていましたが、享保(1716～1736)の頃、コハゼが流行り現在に至っています。季節により足袋を履かない事も多く、又、遊女や芸者は素足を粋とし、特に深川芸者は真冬でも足袋を避けたと言われます。

## 髪型

髪型も時代により流行があり、女性の髪形は江戸初期には髷(たぼ)の部分中期には鬘(びん)の部分、後期には髷(まげ)の部分に変化がありました。

前半期には髷(後ろに張り出した部分)が後ろに長く伸びていったのが、明和(1764～1772)の髷差し(享保の頃に考案)を使って反り上がる様な形になり、安永期(1772～1781)に髷差しが考案されたものに依り次第に鬘(左右の部分)が大きく張り出した灯籠鬘が流行して行くが髷を伸ばさず襟足を見せる様になりました。



然し、灯籠鬘も化政期には廃れ、其の後は種々な髪形が出てきます。

- \* 兵庫髷: 寛永から元禄期のもので遊女から一般女性に広まった。
- \* 元禄島田: 元禄時代、東海道島田宿の遊女が始めたと言われる。未婚女性の一般的髪型
- \* 灯籠髷: 勝山髷、安永～寛政期、鬘が左右に張り出し、髷は丸髷風に変化。
- \* 銀杏返し: 江戸末期、若い一般女性の髪形、明治以降芸人に広がる。

男性の髪形は女性に較べると遥かに地味で、浪人、医師、相撲取り等、を除いて基本的には月代を剃るのが一般的でした。

歌舞伎の女形も月代を剃っていましたが外出する時等は月代部分に紫帽子と呼ばれる紫縮緬の裂(きれ)を付け隠していました。

月代の際の作り方、髪を剃り方等に工夫をして、元禄の頃の糸髷、宝永(1704～1711)の頃の撥髷、等が有りましたが、基本的には髷の形が工夫されていました。日本橋魚河岸の若衆が粋に結った細い髷が鰻(イナ・ボラの幼魚)の背に似た処から「いなせ」と云う言葉が生まれました。



明和(1764～1772)・安永(1772～1781)の頃には本多髷が流行ります。本多髷は朋誠堂喜三二の作と云われます。

- \* 朋誠堂喜三二: 江戸後期の戯作者、狂歌師、本名・平澤常富、秋田佐竹家中の江戸留守居役

## 化粧

嘉永(1848～1854)頃の「皇都午睡」には、江戸の一般女性は化粧をしない事も多く、京に較べて薄化粧と記されています。

化粧の指南書としては「女重宝記」「都風俗化粧伝」「容顔美艶考」等がありますが、何れも上方の出版です。

白粉は鉛白粉や水銀白粉で、水に溶いて刷毛で塗りました、徳川将軍の子が幼児期に多く亡くなっていますが、大奥で子を養育する女性達が使った白粉に含まれる水銀が原因と言われています。

文化八年(1811)に「江戸の水」と云う化粧水が戯作者の式亭三馬に依り売り出されますが、三馬は自らの著作に「江戸の水」を載せ宣伝しています。「江戸の水」はガラス瓶入りで売られ、大きい瓶は百五十文、瓶持参で水のみは百文で売られていました。

紅は「紅花」から作られましたが、化政期頃に笹紅と云い、下唇に墨を塗り、或いは紅を重ね塗りし、上唇と違う色合いに仕上げる化粧法が流行りました。

紅は爪にも塗られましたが高価である為、鳳仙花や酢漿(かたばみ)草の葉を揉んで其の液を使用して赤く染める事も行われました。其の為に鳳仙花は「つまぐれない」とも呼ばれました。

## 隠岐流人秘帳（その8-2）～ 後醍醐帝の行宮 ～

松本良樹

後醍醐天皇の隠岐島での行宮は、島前の黒木ではなく、島後の国分寺である。その根拠は『増鏡』『太平記』と今一つ出雲鐔淵寺（島根県平田市）に残された僧・頼源の譲り状の三書によると、中央の二・三の史家が言い出したのは最近になってからのことである。

しかし、「島前はむろん、島後の人達も、みんな島前黒木説を固く信じて、国分寺説を信ずるものがない。つまり文書と実際、中央と現地の意見が正反対の奇妙な現象となった」（『隠岐島誌』）。

だが、昭和12年、島後の国分寺が文部大臣の史跡指定を受けた。このことは、つまり島人が、昭和12年まで信じて疑わなかった史実と伝説が、全て嘘だったという意味である。

島人の祖先が、わずか600年前の歴史を、全部間違えて、子孫に伝えていたことになるわけだ。

島人が驚いたのも全く無理のない話である。このようにして、数100年来の伝説地黒木は、一挙に架空の説として捨てられ、今まで何の伝承もなかった土地が、本当の行在所として、中央の権威者から押し付けられて新登場したのであった。

しかしそれでは、島後の国分寺が行在所だという『増鏡』や『太平記』また、出雲の僧・頼源の文書は間違っているといえるのか。そして、中央の二・三の学者の解釈、更には文部省の史跡指定は、全てデタラメだといえるだろうか、ここにその両説を、簡単に掲げることしよう。

まず、島後の国分寺説から――。

「愚かなる心やみえむます鏡 古き姿に たちはおよばで……」の書き出しに始まる問題の『増鏡』は、当時の歴史小説で、建武の中興（西暦1331年）後、間もなく書かれたものらしく、その作者は不明だが、その一説に「海つらよりすこし入りたる国分寺という寺を、宜き様に取払いておわします所に定む」とある。文献としては古く、価値高いこの古文書には、西暦1183年の後鳥羽天皇の即位から元弘3年の後醍醐天皇隠岐島脱出までの15代、150年の歴史がつづられている。無論その作者は京にあって150年間の歴史を誰かに聞いて書いたものらしい。

この文書に出てくる問題の国分寺は、当時“政教一致”の世であり、奈良の東大寺を総国分寺として、全国至る所にあったから、『増鏡』の作者も、隠岐島に国分寺があったことは、よく頭に入っていたことだろう。むしろ隠岐といえば、国分寺ということがピンと作者の頭にきたのかもしれない。しかし、この古い文献を否定する理由はない。

次に『増鏡』とほぼ同年代の西暦1350年から70年までの間に書かれた、小島法師の著『太平記』はどうか――。「府の島という所に黒木の御所を造って皇居とす」と記されている。

これについて、中央権威の喜田貞吉博士は、府の島とは国府のある島ということで、当然島後だと主張している。一方別な見解では、府の島とは古くから地名のある別府の島である。別府に対する本府は出雲にある（『桜雲記』）との対立意見があるわけだ。また同博士は『太平記』の中にある天皇脱出の際の記事「天皇御所より御忍び出あり、50町の陸路を経て、千波（チフリ）港（知夫里島）に御着」。の点について「別府からは、陸路を経ただけでは、知夫港につけない。『太平記』の作者は、隠岐の地理に暗かったから、聞きかじりに、いい加減のことを書いたにちがいない」（『隠岐島誌』）ときめつけている。

しかしこの解釈は成り立たぬ。地理に暗いのは『太平記』の著書だけではない。『増鏡』の作者も同じだし、聞きかじりなどといえば、すべて信じられなくなってくるではないか。文章を素直にとれば、「天皇が御所から出て、すぐ舟に乗られなかった。50町もの陸路を歩かれ、やがて、知夫港についた」つまり文章の簡潔を図る場合、誰でも省略しそうな“何々を経て”の個所が、ここでは問題となっている。

---

注)本文に記載の下記のような地名については、巻末のマップを参照ください。

島前・島後、西ノ島町・知夫村・海士町、黒木御所・隠岐島国分寺、宇賀



喜田博士は、別府の陸続きには千波港はなく、別府に行宮があったとすれば「50 町の陸路を歩き“船に乗り”知夫港に御到着」と書かれていなければならぬ、つまり“経て”だけではおかしいというのである。こんな場合、多くの人が「どこそこを、経て…」とやるわけだが、これでは簡潔すぎて違う、というのが喜田博士の解釈なのである。それはともかく、黒木御所から、天皇が脱出し、歩かれたという美田湾まで、50 町(1 里半たらず)であろう。『太平記』は公平に見て、黒木説に分があることがわかる。

では、国分寺説を裏付けるもう一つの資料、出雲鰐淵寺にある同寺の僧・頼源の“譲り状”とは何か。僧頼源は、貞治 5 年(西暦 1366 年)3 月 21 日、老衰のため余命の少ないのを悟り、鰐淵寺の寺宝を後任住職の僧浄達に譲ることにし、譲り品目録を書いたのである。その寺宝の中に、後醍醐天皇が当時王政復古を祈願して、各地の社寺に送られた(隠岐の社寺にも送られている)祈願文が一通あったらしく「後醍醐帝先朝御願書元弘 2 年 8 月 19 日於隠岐国国分寺御所被下之…」の文字がある。この“国分寺御所”の僧頼源の文字が、数百年の伝説地黒木を、いっぺんに否定し、国分寺行在所を作り上げた決め手となったものである。

要するに国分寺説は、

- ① 『増鏡』の「海つらより少し入りたる国分寺という寺を、宜き様にと取払いておわし払いて、負わす所に定む」の項。
- ② 僧頼源の文書「元弘 2 年 8 月 19 日、後醍醐帝が隠岐国分寺から下された御祈願文」なる二つの文書から成り立っている。それ以外に何らかの伝説も資料も一切ない。

では島前の黒木御所は――。

A. 『増鏡』から 10 年ほど遅れて、小島法師によって書かれたといわれる『太平記』に「府の島という所に黒木御所を造って皇居とす」とある。黒木派は現在、西ノ島町にその地名があり、今も行宮跡が残されているし、また太平記の中に「天皇御所よりお忍び出でありて、50 町の陸路を経て千波港に御着」とある。この千波(チブリ)港(知夫港)は島こそ違いが黒木のすぐ近くにある島であり、島後には「ちぶり」という地名の港はない。

B. 後醍醐天皇の御製に

こころざす かたを問わばや 波の上に 浮きてただよう あまの釣舟 (『増鏡』)

すまのあま 浦こぐ舟の 楫をたえ よるべなき身ぞ 悲しかりける (『続古今集』)

などととも、海のことをしきりに出てくるが、国分寺からは海は見えないし、地理的に見ておかしい。特にこれらの歌が天皇ご自身のものという点を強調している。

C. 隠岐島の最も古い文献である『隠州視聴合記』は、江戸時代の中期(寛文 7 年・西暦 1667 年)のものだが「府より北の山崎を黒木という」。伝にいわく、昔後醍醐天皇のしばらくくらしたまへる所なり。故に今に到って黒木皇居という。その崎を廻り行けば、14 町ばかりにして、宇賀村に至る。うんぬん」とあり年代は新しいが、著者が官命によって、隠岐を実地に歩いて書いている点を挙げている。

D. 九州、筑後の豪族だった星野家は、わけあって後鳥羽上皇の勅諭で、島の豪族村上家と親戚関係を結び、以来最近までその関係が続いた。その星野家の家譜に「島前海士の村上助九郎が後醍醐天皇脱出時に働いた」ことが書かれており、地理的に見て、黒木説に有利だ。

E. 国分寺が行宮でなかった、と思われる反証がある。永正 4 年(西暦 1508 年)のころ、国分寺に阿闍梨権少僧都(僧の階級)憲舜という僧があった。彼は国分寺のすたれているのを哀しみ、時の県主、新五郎宗清に頼み、近国から浄財を集め、同寺を立派に再興した。(『隠州視聴合記』)この僧が、後世のために、永正 12 年『置文』を残した。内容は国分寺復興の模様と、同寺の歴史などを書いたものである。

同寺は、欽明天皇の代の御祈願書であるとか、推古天皇の代の建立、聖武天皇のご再興、三重の塔は、後鳥羽院の時に造ったなど、およそ皇室との関係については、いかがわしい点まで記している。内容がマユツバであろうが、なかろうが、千年前のことまでも掘り出して書き並べている。それなのに、当時からして、わずか 170 年前の、国分寺にとっては最も重大な出来事であるはずの後醍醐天皇のことについては、少しも書いていない。こんなに時代も近く、しかもその本堂に一ヶ年近くも滞在されたという後醍醐天皇のことについては、一言半句も書いていないのはどうしたことであろうか。

おそらくそんな、歴史的事実がなかったからだ。つまりは、室町時代の永正 4 年の頃にも、(江戸時代中期の寛文 7 年(『隠州視聴合記』)の出来た年)ごろにも、国分寺が「後醍醐天皇の行在所である」という伝承がなかった証拠である。

F. 昭和 32 年 7 月西郷町の郷土史家、藤田一枝氏が島前、黒木地区宇賀の宇野家で『諏訪景丸古譜記』という貴重な古文書を発見した。同書は宇賀式内大社比奈麻治比売神社の社家に伝わっている門外不出の家譜である。同家祖先宇野内臓源康直が、後醍醐天皇隠岐島ご脱出後、間もなく記録した同家の過去帳で、金泥折本になった立派なものである。それには正暦 2 年(991 年)から、歴応元年(西暦 1338 年)にわたって、宇野家歴代の主な出来事が書かれている。この中で後醍醐天皇に関するものを主体に抜粋しよう。

「父、勝丸の時代、正慶元年(北朝年号、今から 638 年前、元弘 2 年にあたる)3 月 23 日、後醍醐天皇が隠岐黒木の坪のうちに遷幸になり、近藤与次郎という者の家に一泊され、翌日そこから東二町の宇野家に移られた。翌年 2 月 18 日朝、美田の津より島を脱出せられた」とある。更に同家譜は、「宇野家の祖先は、参河の国の諏訪氏の出で、諏訪景丸のとき隠岐に来て住んだ。諏訪三郎の子に、信吉郎とおき美という二人の子があった。新吉郎は長門の国へ養子に行った。その頃、源義親が配流され、中京という所に住む。義親と、諏訪おき美とが結ばれ、啓三郎を生む。源義親は啓三郎を隠岐に残したまま出雲に脱出した。しかし、義親は勅命を受けた平正盛に出雲で斬られる。島に残った源義親の子、啓三郎から宇野氏が始まる。宇野貞太郎の代に神主職になった。宇野勝丸(宇野式部)の時に後醍醐天皇の島流し事件が起きた」と書かれている。なお、正慶 2 年 2 月 18 日朝、後醍醐天皇は、美田の津より御還幸になられ、しばらくたって近藤為次郎のところを坪の内、中湯といっていたところを王城(オオシロ)、そのほかを黒木と守護の楠正行が送地名したとある。これは慶長 5 年(西暦 1601 年)の別府の土地台帳にもはっきり残っている。

ともかく出雲鐔淵寺の僧頼源の“譲り状”は、その文書によれば後醍醐天皇ご脱出後 34 年目の貞治 5 年(西暦 1366 年)頼源が老衰し死の寸前に、記憶をたどって書いたものだが、宇野家の家譜は歴応年間(1338 年)のもので、約 30 年も事件に近い時に書かれている。

しかも黒木行在所と宇野家とは同一の地区であり、地理的に見ても確実性がうんと違うし、さらに同家譜は、数 100 年の土地の伝承と、地名の実証に裏付けされている。

歴史小説家の吉川英治氏は、その『私本太平記』で後醍醐天皇に関する記事のうち、大萬寺山に玉若酢神社があったとか、後醍醐天皇が島後の都万の港から脱出したとか、都万の港についた船の中から、大萬寺山の雲が異様に見えたなどと、とんでもない異様なことを憶測で書いている。これはいずれも、隠岐の地理を知らぬために起こった間違いで、現在のように交通その他が発達した時代にあつてさえ、中央の史家はこのような過ちを犯すものだ。

まして当時においておやである。その点、地理的に裏付けされた現地の古文書は価値の高いものだ。中央の史家は事実を正しく解釈し、歴史小説家また、末節の創作は許されるとしても、史家の中心点を、勝手に創作する越権を犯してはならぬと思う。

ここまでは、近藤泰成氏の『隠岐流人秘帳』よりの転載です。

さて、この個性的な後醍醐天皇は子沢山で知られた天皇で、設けた子供は 32 人(醍醐天皇に次ぐ歴代第 2 位)。これらの子供を産んだ女性が 30 人以上と傑出した存在でした。

子供を産まなかった女性も数えれば 5~60 人もいたと思われます。すごいですネ!



これらの女性の中で鎌倉時代後期から南北朝時代にかけての後宮・女院で、後醍醐天皇の寵妃にして院号宣下を受け、新待賢門院と号し、三位局と呼ばれた阿野廉子(レンジ)という女性とは、どんな経歴を持った人だったのでしょうか？

調べてみると、阿野家は羽林家の家格を有する公家で、藤原北家閑院流・篠野井庶流。阿野の家名は草創期における武家との相続関係に由来しており、源義朝の七男で義経の同母兄である今若が駿河国駿東郡阿野荘(沼津市西部)を領し、その地名を苗字の地として阿野全成と称した事が、もともとの始まりです。公家の阿野家は、藤原成親の四男にして滋野井実国(サネクニ)の猶子である公佐(キンスケ)を家祖とする。阿野全成の娘が阿野荘の一部を相続して公佐に嫁した後、公佐および全成の娘の子孫が代々これをそのまま相続し、やがて『阿野』が一流の家名となり公家になったとあります。

廉子の父は右近衛中将・阿野公廉(キヤス)で母は不詳だが、後に洞院公賢(トウインキカタ)の養女となります。元応元年(1319)8月西園寺禧子(キシ)が後醍醐天皇の中宮に冊立された際、19歳の廉子は禧子について上臈として入侍したが、間もなく禧子を押しつけて後醍醐の寵愛を一身に集めるようになった。その結果ほどなく後醍醐との初めての子を正中元年(1324)に恒良親王(ツネナガ)を産み、嘉暦元年(1326)に成良親王(ナリナガ)、同3年(1328)には義良親王(ノヨシ 後に後村上天皇となる)を産んでいる。従ってこの頃の後醍醐天皇の寵愛を一人占めしていた観があります。

ただ、廉子は美貌と肉体だけが売り物の女性ではなく、才女で後醍醐のよき話し相手だったのではないかと思います。だからこそ後醍醐が隠岐に流される時も、彼女を手放すことが出来ず、配流先の隠岐まで連れて行ったのであろう。

建武の親政下においては皇后並みの待遇を受け、建武2年(1335)4月准三後の荣誉によし、内政にも影響力が及んだと考えられ、恒良親王の立太子や、足利尊氏と結託して後醍醐天皇と対立した護良親王(モリナガ)の失脚・殺害にも関与したとされます。親政瓦解後は吉野遷幸にも同行して後醍醐を助け、その亡き後は後村上天皇の生母として南朝の皇太后となり正平6年/観応2年(1351)12月に院号宣下を受け正平12年/延文2年(1357)9月に落飾した。正平14年/延文4年河内観心寺で崩御、享年59歳であった。

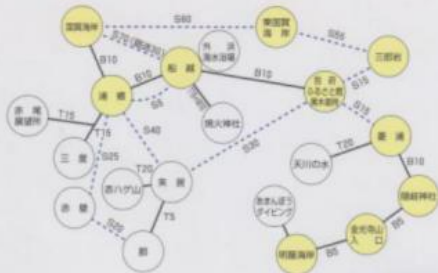
おわり

大山隠岐国立公園

# 隠岐の旅マップ

## 大いなる自然と伝説の島々

■主要観光地への時間(島前)



W	往	歩
S	定期(観光)船	
B	路線バス	
T	タクシー	

数字は時間(単位:分)を表わす

どうぜん  
島前







## NHK朝ドラ「ひよっこ」～富さんの思い出話から～

宮本 直紀

富さんは、昔赤坂の売れっ子芸者で、ヒロインみね子が住む「あかね荘」の管理人。



昔、彼と二人でいろんな所へ。

- ◇ 松島の美しい島々・天橋立・安芸の宮島・山梨の富士山
- ◇ 阿蘇山のカルデラ・鹿児島の子島・沖縄の青い海
- ◇ 北海道の毛ガニ・仙台の笹かま・茨城のアンコウ・静岡のうなぎ・新潟のへぎそば
- ◇ 三重の伊勢海老・長野の柿の葉寿司・通天閣でお好み焼き・讃岐うどん
- ◇ 宍道湖のしじみ・土佐のカツオ・下関のふぐ・長崎のカステラ・・・



みんな素敵だったわ！！

だから全国の名産品が今も好き・・・ 思い出すから・・・  
一番の思い出は桜・・・（多分赤坂周辺で彼と一緒に見た桜？）

このテレビを見て今自分は何を思い出すだろうか？

思い出として脳裏に浮かぶのは、

- ・やさしかった曾祖父母・ふるさとの幼馴染・片思いの同級生・初めての登山(南アルプス仙丈岳)で見た雲海とブロッケン現象・上高地明神池の幻想的な夕靄 etc・ etc
- ・・・皆 50 年以上も昔のことばかり。

みなさんの思い出も、ぜひ投稿ください！！





## おばんちゃのつぶやき通信

### 拝啓裏磐梯さま・ふるさと自慢(その2)

宮河 悦子



磐梯朝日国立公園 裏磐梯地区パークボランティアを始めて二十余年時が過ぎて、おばさんはおばんちゃになりました。これまでのパークボランティアの活動日記の思い出から『秋の裏磐梯の魅力』をつぶやきましょう。

#### 地球の鼓動が聞こえる

裏磐梯ビジターセンター支援の集合時間まで時間があつたので、前々から行きたかった磐梯山噴火記念館へ寄りました。1888年(明治22年)7月15日午前7時45分磐梯山は大爆発をおこしたのです。地下水がマグマに熱せられてできた水蒸気の圧力で、周囲の岩石が爆破される現象の水蒸気爆発です。小磐梯の山体が吹き飛ばされて、約20億トンの岩なだれとなって5つの村、11の集落の人々が襲われました。磐梯山の岩なだれの速さは45～77km/時とされています。火口の近くの雄子沢や細野の集落は、一瞬の間に泥流にのまれて全滅しました。多くの尊い生命が奪われました。

東に回った泥流は長瀬川をせき止めて、桧原湖・秋元湖・小野川湖の3つの湖と五色沼をはじめ約300の沼をつくりました。泥流のために桧原川がせき止められて、水位が増して旧桧原村は水没したのです。噴火時の写真や資料を見て、想像していたより大きな惨事だったのだと思い直しました。

ビジターセンター主催の“五色沼わくわく散歩”の前に五色沼の毘沙門沼へ。空気が冷たくて晴れているので、水の色がとてもきれいです。磐梯山もくつきり姿を現し、沼の周囲の樹々にまきついたツタウルシが赤くなり始めています。小さな小さな白い花のゴマナが増えてとてもきれいです。薄紫色のノコンギク、黄色のアキノキリンソウ、そしてまっ赤なかわいいツリバナ。自然のカラーコントラストはなぜこんなに美しいのでしょうか。

「裏磐梯高原の美しさは、磐梯山の噴火による多くの人々の尊い犠牲の上に築かれていることを忘れてはならないのです。後荒廃した地に先人たちは、私財をなげうって木を植え緑を復活させました。そして多くの湖沼群と美しい景色をいただきました。その中で暮らしへの恩恵をも受けて生きてきました。そのためにも先人たちの心を受け継ぎ、自然を大切に、後世へ伝えていかなければなりません。裏磐梯大好き！ここに来ると非日常の時間を得、元気をもらいリラックスできるのです。大きく深呼吸できる場所なのです。」と午後から参加した『裏磐梯エコツアーフェスタ』の司会進行役の女性の言葉が印象的でした。





## デコ平でアサギマダラを観察しよう

磐梯山の稜線の上に湖が見える。ブナの原生林の中にスキー場ができ、ブナの林が切られてできたゲレンデからの眺めです。会津地方で一番高い山の上に湖が見えるそれも猪苗代湖、不思議な光景です。

ブナの樹にまきついたツタウルシ、紅葉が始まっています。ゲレンデー面のヨツバヒヨドリ、手で触れると綿毛になって風によって飛んで行きます。その行く先に数羽のアサギマダラが舞っています。夏から秋に移ろうとしている季節の高くなった空、その空がとにかきれいです。湿原のウメバチソウの白もエゾリンドウの紫も、この湿原の特徴的な風景をつくるアオモリトマツ(オオシラビソ)もきれいな青空に絶妙にマッチしています。川の中の石にダイヤモンドソウが群生しています。種が飛んできて根付いたのでしょう。天然の箱庭のようです。目の前にツルハシバミの実、タムシバの実どちらもおもしろい形です。珍しいトリガタハンショウズルの種を見ました。

ブナの幹のクマの爪痕はととも鋭くて深いです。自然界で生きる厳しさを見せてもらった気がしました。ゴンドラ下のスキー場をくぐりました。スキー場はススキ・ゴマナ・ナンブアザミ・ハンゴンソウ・ヨツバヒヨドリ・ノコギリソウ・ナギナタコウジョなどのお花畑になっています。

アサギマダラが数羽飛んできて目の前で止まりました。アサギとは古来からある色の浅葱色の事と聞きます。よくよく見ると白い色と思っていた白に薄い水色がかかっているその色は美しい浅葱色、名前の由来が分かった瞬間です。ヒョウモンチョウ・キベリタテハ・アキアカネが飛び、スキー場のお花畑は初秋の景色です。

## PVスキルアップ講習会

太陽が眩しく輝き、弁天沼の湖面の中央が楕円状に光っている。コバルトブルーの水の色が美しい静寂な初秋の五色沼自然探勝路。ゴマナの花が咲き始め、とても初々しい。9月と言ってもまだまだ汗ばむ気候、行く先の足元にミソハギが咲き、ツリバナの赤い実がぶら下がって岸辺のツタウルシは色づき始め、秋が確実に近づいています。

次の日「自然ふれあい行事・裏磐梯の秋」の下見で歩いた休暇村探勝路とキャンプ場は、カラムシ、シロヤナギと草原の広場が印象的で、その草むらは恰好な観察フィールドです。

イナゴがピンピン跳び、ヤママダラヒカゲチョウが飛んでいました。アケボノソウがひっそりと咲いて見つけるとみんながホッとすることから不思議な花です。ツルキケマン初めて見る花です。林の中で鳴いている虫カンタンと言う名だと言う事を知りました。





☆☆☆☆☆☆ **お・知・ら・せ** ☆☆☆☆☆

☆☆

☆☆ **今後の予定** ☆☆

☆☆ ● 12月9日（土）13：30～17：00 ☆☆

☆☆ 第4回麻生ふるさと交流会 ☆☆

☆☆ ● 2月10日（土）13：30～17：00 ☆☆

☆☆ 第5回麻生ふるさと交流会 ☆☆

☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆